

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2017年度 共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2018年 4月 9日 提出

1. 研究課題名	
花供養をめぐる近世後期京都俳諧の研究 (英文標記:A Study on Kyoto-Haikai through the 18th and 19th Centuries Concerning Hanakuyo)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
竹内千代子(たけうち ちよこ)	立命館大学・非常勤講師
3. 研究分担者 (合計: 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
堀 淳子	郷土史家
畑 忠良	郷土史家
松本節子	立命館大学・客員協力研究員
赤間 亮	立命館大学文学部・教授
金子貴昭	立命館大学衣笠総合研究機構・准教授

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
京都東山の芭蕉堂で毎年のごとく発刊された『花供養』を全冊にわたって翻刻し、近世後期の京都および全国の俳諧の実態を明らかにする。同資料は、近世後期のおよそ100年間、作者はおよそ全国に及ぶため、近世後期の日本、特に京都の俳諧史資料として有効である。このため、これによって江戸時代の俳諧と近代俳句との連続性あるいは非連続性の検証をおこなうことを目的とする。翻刻データは、すでに公開されている原本デジタル画像と同時に参照できるようにし、研究者間の共有を図る。当年度より、課題が対象とする資料範囲を拡大し、『花供養』以外の芭蕉頭彰資料にもスポットをあてていきたい。
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
ARCの施設を利用して、1ヶ月あたり2～3回の研究会を実施した。その際、ARCの機器を利用し、古典籍ポータルデータベースを参照しながら、2016年度までに構築した『花供養』7点のテキストデータ精査および新たに10点のテキストデータを作成した。精査を終えた7点は、古典籍ポータルデータベースから原本画像と同時に翻刻データを閲覧可能な状態とした。また、『花供養』および関連資料のデジタル化を進捗させた。それらは2018年度にARC古典籍ポータルデータベースに登録し、閲覧可能とする予定である(非公開)。これらを基盤に、適宜成果創出をおこなった。